

2年生用



2年()組()番
氏名()

シラバスって何？

シラバスとは、各学校の教育活動に関する詳細な計画書のことです。シラバスには、教科・科目をはじめとする様々な教育活動について、目標と内容、使用教材、指導計画、指導方法、評価方法等が記載されます。

シラバスの語源

英語のシラバス(syllabus)は、ギリシャ語の sittuba、すなわち「羊皮紙製の書籍のラベル」、または「標題紙」という意味の言葉を語源とします。

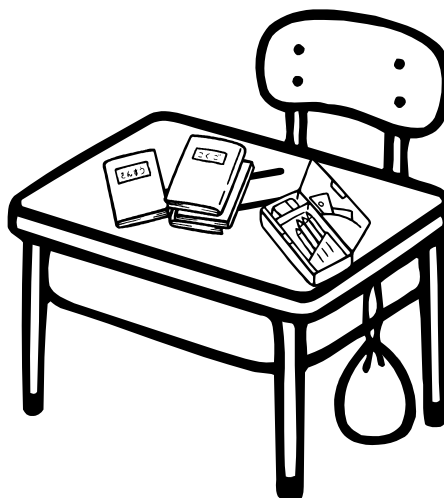
伊集院高校シラバス活用のポイント

本校のシラバスは、教科・科目ごと1頁に、次の項目をまとめてあります。

- (1)教科・科目の目標
- (2)学習のねらい・学習内容
- (3)試験範囲・出題方針
- (4)評価の観点・方法
- (5)学習のアドバイス

みなさんがより効果的に学習を進めていけるように、教科・科目によっては、学習内容の順番や時期を変えたり、内容を精選してあるものもあります。シラバスに記載された各教科・科目の学習目標にしたがって家庭での学習計画を立案・実践してみましょう。きっと、すばらしい成果があがると思います。

学年や文理のコースによっては、進学に向けて教科書早期採択を行ったり、大学に備えた授業を展開する教科・科目もあります。シラバスを熟読し、学年末には各教科・科目の到達目標をクリアできるよう期待します。



教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
国語	現代文（文・理）	2	原則必修	一斉	普通	2

No. 1

現代文

教科書（発行所）	『精選 現代文B』（三省堂）
教科書以外の教材	『ことのは』（いづな書店） 『新総合図説国語』（東京書籍）

目 標		1 文章の的確な読解を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に判断する力を養う。 2 日本語の美しさや表現の豊かさを味わうことで、感受性や想像力を育む。 3 自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。 4 生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	随想「最初のペンギン」	・筆者の心理を読み取りながら、自分の考えを深める。	実力考查
	5月	小説「山月記」	・登場人物の人物像や心情の推移を的確に読み取る。 ・小説を自己の問題に引きつけて味わう姿勢を養い、自己について考えを深める。	中間考查
	6月	評論（一）「ミロのヴィーナス」	・評論を読み、その要旨を的確に捉える。 ・コミュニケーションのあり方と芸術の見方について、考えを深める。	
	7月	詩歌「二十億光年の孤独」「パンの話」「永訣の朝 木に花咲き・短歌十五首	・韻律に注意し描かれた情景や心情にふさわしい朗読を工夫する。 ・文体や修辞などの表現の特色をとらえ、作品を深く味わう	期末考查
	8月	評論（一）「未来世代への責任」	・評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。 ・環境問題について考えを深める。	実力考查
二学期	9月	評論（二）「コンクリートの時代」	・評論を読み、そこに提示された問題について、自分の意見を表現する。	
	10月	小説（二）「レキシントンの幽霊」	・小説に描かれた人間、社会について、表現に即して理解 ・時代背景をふまえて小説を読み、人間の生き方について考えを深める。	中間考查 実力考查
	11月	評論（三）「『である』ことと『する』こと」	・論理の展開や要旨を的確にとらえる。 ・筆者の提起している問題について理解し、社会や人間に考えを広げる。	期末考查
	12月	小説（二） 蠅	・小説に描かれた人間、社会について、表現に即して理解 ・時代背景をふまえて小説を読み、人間の生き方について考えを深める。	
三学期	1月 実力考查	10小説「こころ」	・長編小説の展開を丁寧に追って作品の主題に迫る。 ・作品を深く読み、人間のあり方についての問題意識をつかむ。 ・「私」の心の変化を場面展開に即してまとめる。	実力考查
	2月	評論（二）「メディアと歴史」	・評論を読み、筆者の述べる人間、社会、自然についての的確に理解する。	学年末考查
	3月	評論（三）「戦争の〈不可能性〉」	・筆者の提起している問題について理解し、社会や人間についての考えを深める。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		○予習の段階で語句の意味は必ず辞書で調べておくこと。また、疑問点を明らかにしておこう。 ○授業では、内容を完全に理解できるように積極的に参加しよう。 ○復習では、要約に取り組むこと。内容がわかるまで評書を書いて、友達に聞いたりリレし、期待する。レ ○この1年は幅広く新聞や新書などなるだけ多くの本を読むことです。		
評価の観点		1 関心・意欲・態度…言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。 2 話すこと・聞くこと…目的や場に応じて話したり聞いたりして、自分の考えを深め発展させている。 3 書く能力…相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め発展させている。 4 読む能力…文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み、自分の考えを深め発展させている。 5 知識・理解…言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについて理解を深め、知識を身に付けている。		
評価の方法		①定期考查②実力考查③授業への取り組み④課題の提出状況⑤小テスト⑥ノートにおける予習復習の状況などから総合的に評価する。 *授業においての意見発表への意欲と的確さを求める。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
国語	古典B（文・理）	3	必修	一斉	普通	2

No. 2

古典B

教科書（発行所）	『標準古典B』（第一学習社）
教科書以外の教材	『完全マスター古典文法』（第一学習社） 『古文単語330』（文英堂） 『必修新明説漢文』（尚文出版） 『新総合図説国語』（東京書籍）

目 標		古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広めることによって、人生を豊かにする態度を育てる。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	説話『古本説話集』 故事・寓話「助長」	・説話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ・文法事項を踏まえながら現代語訳をする。 ・訓点に従って正確に書き下し文にする。	実力考查
	5月	説話『古今著聞集』 故事・寓話「画竜点睛」	・説話の展開や内容のおもしろさを味わう。 ・文法事項を踏まえながら現代語訳をする。 ・音読の面白さを味わうとともに、読解を深める	中間考查
	6月	物語『竹取物語』 故事・寓話「朝三暮四」	・文法事項を踏まえながら現代語訳をする。 ・物語の展開を正確に読み取り、伝記物語の面白さを味わう ・基本的な句形・語法を理解し、内容の面白さを読み解く。	期末考查
	7月	物語『伊勢物語』 古代の史話「背水の陣」	・和歌の修辭法に注意しながら現代語訳する。 ・古文単語の意味の理解を深める。 ・時代背景を学習しながら話の面白さを読み味わう。	
	8月	物語『伊勢物語』 古代の史話「背水の陣」	・歌に込められた心情を理解する。 ・古文単語の意味の理解を深める。 ・時代背景を学習しながら話の面白さを読み味わう。	実力考查
二学期	9月	随筆『徒然草』 不思議な世界「新死鬼」	・無常観や人生観を読み取り、当時の社会状況について理解する。 ・作品が作られた時代背景を理解する。 ・基本的な句形・語法を理解し、内容の面白さを読み解く。	中間考查
	10月	随筆『方丈記』 不思議な世界「枕中記」	・無常観や人生観を読み取り、当時の社会状況について理解する。 ・文法事項を踏まえながら現代語訳をする。 ・基本的な句形・語法を理解し、内容の面白さを読み解く。	
	11月	随筆『枕草子』 項羽と劉邦「鴻門之会」	・随筆を読み、自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。 ・文法事項を踏まえながら現代語訳をする。 ・句法に気をつけ書き下し文にしながら物語を読み進める。	期末考查
	12月	随筆『枕草子』 項羽と劉邦「鴻門之会」	・自然や人間に対する古人の優れた感性に触れる。 ・文法事項を踏まえながら現代語訳をする。 ・句法に気をつけ書き下し文にしながら物語を読み進める。	
三学期	1月	日記『更級日記』 項羽と劉邦「四面楚歌」	・日記を読み、作者の境遇や心情を理解する。 ・古文単語の意味の理解を深める。 ・登場人物の生き方を通して、人間の在り方について考える	実力考查
	2月	物語『平家物語』 項羽と劉邦「四面楚歌」	・軍記物の面白さを味わうとともに文法事項を確認する。 ・作品が作られた時代背景を理解する。 ・登場人物の生き方を通して、人間の在り方について考える	学年末考查
	3月	物語『義経記』 諸家の思想「孟子」「老子」「韓非子」	・登場人物の心理を読み取る。 ・儒家・道家をはじめとする思想を理解する。 ・簡潔な表現や巧みな比喩に注目する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		○重要語句や文法事項は辞書や補助教材を活用し、事前に予習しよう。そのためには余白を十分にとって本文を書き写し、現代語訳に挑戦することが大切です。 ○授業では、予習段階で疑問に思ったことを質問したり、改めて考えたりしよう。 ○復習では、音読を必ず行い、内容理解に努めましょう。		
評価の観点		①関心・意欲・態度＝古典を読む力を自ら進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。 ②読む能力＝古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深めようとしている。		
評価の方法		①定期考查②実力考查③授業への取り組み④課題の提出状況⑤小テスト⑥授業時のノート 等が総合的に判断する。 ＊授業時の積極的な発表を期待する。覚える作業だけでなく、考える意欲を高く持って欲しい。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地歴公民	世界史 A	2	選択必修	一斉	普通科	2

No. 3

世界史 A

教科書（発行所）	高等学校 世界史 A（第一学習社）
教科書以外の教材	世界史 A ノート（第一学習社） 明解世界史図説 エスカリエ（帝国書院）

目 標		世界の歴史の大きな枠組みと流れを、近現代史の概要を中心に我が国の歴史と関連づけながら理解させ、現代世界の特徴を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一 学 期	4 月	第3編第3章世界戦争と平和 1 第一次世界大戦 2 ロシア革命と大戦の終結 3 ヴェルサイユワシントン体制 4 アメリカとヨーロッパ	資本主義諸国による帝国主義の進行が背景となり、第一次世界大戦が勃発した過程を理解する。第一次世界大戦後のヴェルサイユ体制・ワシントン体制の成立について学ぶ。	実力考查
	5 月	5 東アジアの民族運動 6 アジアの独立運動とラテンアメリカ 7 世界恐慌 8 ファシズムの台頭 9 日本の軍国主義と中国	第一次世界大戦後のアジア・ラテンアメリカ諸民族の民族主義の目覚めとその運動の状況について理解する。世界恐慌の発生の背景とファシズムの成立について学ぶ。	中間考查
	6 月	10 第二次世界大戦の勃発 11 第二次世界大戦の終結 第4章三つの世界と日本の動向 1 戦後世界の出発 2 戦後の東アジア	第二次世界大戦の背景とその過程・影響について考察する。第二次世界大戦後の新しい国際体制やアジア・アフリカ諸国の動向について理解する。	期末考查
	7 月	3 アジア諸国の独立 4 戦後の西アジア・アフリカ 5 第三世界の台頭とラテンアメリカ 6 緊張緩和と多極化 7 中国の動揺とベトナム戦争	第二次世界大戦後の新たな米ソの対立について考察する。第三世界の台頭とその影響力について理解する。	
	8 月			
二 学 期	9 月			
	10 月			
	11 月			
	12 月			
三 学 期	1 月			
	2 月			
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・授業を重視し、毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み、歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し、多角的に学習する。		
評価の観点		①近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究し、そのあり方について考察しようとしている。 ②現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ③近現代を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ④近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。		
評価の方法		評価の基準は定期考查となるが、出席状況、授業への取り組み、ノート・課題提出・実力考查などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地歴公民	世界史B	3	選択必修	一斉	普通科	2

No. 4

世界史B

教科書（発行所）	詳説世界史B（山川出版社）
教科書以外の教材	新世界史研究ノート【標準編】（啓隆社） NEW STAGE 世界史詳覧（浜島書店）

目 標		世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史を関連づけながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一 学 期	4 月			
	5 月			
	6 月			
	7 月	序章 先史の世界	人類の誕生に始まり、文字のない時代の歴史について学ぶ。	
	8 月	第1章 オリエントと地中海世界	オリエント・ギリシア・ローマのそれぞれの地域における文明や国家の成立の過程・発展を把握し、理解する。	実力考查
二 学 期	9 月	第2章 アジア・アメリカの古代文明	アジアの風土を踏まえた古代インド・東南アジア各文明の特長及び、中華文明の起源と秦・漢帝国、日本との関連も含めた古代東アジア世界の形成過程を学ぶ。	
	10 月	第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	魏晉南北朝や隋唐と周辺諸民族の抗争を軸に東アジアの歴史について学ぶ。内陸遊牧民を中心とする文明の交流について考察する。	中間考查 実力考查
	11 月	第4章 イスラーム世界の形成と発展	アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム化に触れ、イスラーム世界の形成発展について考察する。	期末考查
	12 月	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1. 西ヨーロッパ世界の成立 2. 東ヨーロッパ世界の成立	民族大移動から西ヨーロッパ世界の成立の過程や中世封建社会について理解する。東ヨーロッパ世界の成立とその特質について学ぶ。	
三 学 期	1 月	3. 西ヨーロッパ中世世界の変容 4. 西ヨーロッパの中世文化	西ヨーロッパ世界の変質の原因と過程・結果について考察する。西ヨーロッパ注せ文化の成立について学ぶ。	実力考查
	2 月	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	宋王朝とその周辺諸国の歴史について考察する。モンゴル帝国の成立とその発展について理解する。	学年末考查
	3 月	第7章 アジア諸地域の繁栄	明・清・ムガル・オスマン帝国を中心に東南アジア・日本などアジア諸国の繁栄について考察する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・授業を重視し、毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み、歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し、多角的に学習する。		
評価の観点		①世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追求し、そのあり方について考察しようとしている。 ②世界の歴史から課題を見出し、現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ③世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ④世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。		
評価の方法		評価の基準は定期考查となるが、出席状況、授業への取り組み、ノート・課題提出・実力考查などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地歴公民	日本史 A	2	選択必修	一斉	普通科	2

No. 5

日本史A

教科書（発行所）	現代の日本史（山川出版社）
教科書以外の教材	新日本史要点ノート【応用編】（啓隆社） 最新日本史図表（第一学習社）

目 標		近現代を中心とする我が国の歴史の展開を，世界史的視野に立ち，我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて考察する。そのことによって歴史的考察力を培い，国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学 期	4 月	序章 近世社会の動揺と近代への胎動 1. 幕藩体制の動揺と政治改革 2. 新しい経済構造と学問の芽生え 3. 日本をとりまく世界の変容	幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成の基礎的な事柄を，欧米諸国のアジア進出と関連付けて理解する。	
	5 月	第 1 章 開国と明治維新 1. アジアの激動と日本の開国 2. 江戸幕府の滅亡 3. 明治維新 4. 富国強兵	開国と幕府の滅亡，文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化，自由民権運動と立憲体制の成立に着目して，明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について理解する。	1 学期中間考查
	6 月	5. 明治初期の外交 6. 殖産興業と文明開化 第 2 章 立憲国家の成立 1. 自由民権運動 2. 立憲制の成立		
	7 月	3. 立憲政治の展開 4. 日清・日露戦争 5. 産業革命と社会の変容 6. 明治の文化	条約改正，日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係を理解する。	1 学期期末考查
	8 月			
2 学 期	9 月			
	10 月			
	11 月			
	12 月			
3 学 期	1 月			
	2 月			
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・授業を重視し，毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み，歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し，多角的に学習する。		
評価の観点		・我が国の近現代の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め，意欲的に課題を追究し，その在り方について考察しようとしている。 ・我が国の近現代の歴史の展開から課題を見だし，国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。 ・我が国の近現代の歴史の展開に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。 ・我が国の近現代の歴史の展開についての基本的な事柄を，国際環境と関連づけて総合的に理解し，その知識を身に付けている。		
評価の方法		評価の基準は定期考查となるが，出席状況，授業への取り組み，ノート・課題提出・実力考查などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 6
地理歴史	日本史B	3	選択必修	一斉	普通科	2	日本史B

教科書（発行所）	詳説日本史B（山川出版社）
教科書以外の教材	最新日本史図表（第一学習社） 新日本史要点ノート【応用編】（啓隆社） 要点整理 ゼミナール日本史（浜島書店）

目 標		我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて考察する。そのことによって歴史的考察力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学期	4 月			
	5 月			
	6 月			
	7 月	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱	幕藩体制の変容と近代化の基盤の形成の基礎的な事柄を、欧米諸国のアジア進出と関連付けて理解する。	
	8 月			第2回実力考查
2 学期	9 月	第9章 近代国家の成立 1. 開国と幕末の動乱 2. 明治維新と富国強兵 3. 立憲国家の成立と日清戦争	開国と幕府の滅亡、文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について理解する。	
	10 月	4. 日露戦争と国際関係 5. 近代産業の発展 6. 近代文化の発達	条約改正、日清・日露戦争とその前後のアジア及び欧米諸国との関係の推移に着目して、我が国の立憲国家としての展開について理解する。	2学期中間考查 第3回実力考查
	11 月	第10章 二つの世界大戦とアジア 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民文化の変容と大衆文化	国際社会の中の日本の立場に着目して、第一次世界大戦前後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について理解する。	
	12 月	4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭 6. 第二次世界大戦	国際社会の動向、国内政治と経済の動揺、アジア近隣諸国との関係に着目して、対外政策の推移と戦時体制の強化など日本の動向と第二次世界大戦とのかかわりについて理解する。	2学期期末考查
3 学期	1 月	第11章 占領下の日本 1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和 第12章 高度成長の時代 第13章 激動する世界と日本	占領政策と諸改革、平和条約と独立などに着目して、我が国の再出発を理解する。 講和条約締結後の経済復興、高度経済成長など、日本経済の発展と国民生活の変化を理解する。	第4回実力考查
	2 月	第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	遺跡や遺物など様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史を考察する基本的な方法を理解する。 旧石器文化、縄文文化及び弥生文化の時代を経て、古墳時代とヤマト政権の組織などについて理解する。	学年末考查
	3 月	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への道 3. 平城京の時代	我が国において国家が形成され律令体制が確立する過程、隋・唐など東アジア世界との関係に着目して、古代国家の形成と展開を理解する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・授業を重視し、毎時間集中力を持って臨む。課題等の提出は期限をしっかりと守って出す。 ・関係する書籍等も自主的に読み、歴史への興味・関心を持つ。 ・図表の写真・資料・地図等を積極的に利用し、多角的に学習する。		
評価の観点		・我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に課題を追究し、その在り方について考察しようとしている。 ・我が国の歴史の展開から課題を見だし、国際環境と関連づけて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ・我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。 ・我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身に付けている。		
評価の方法		評価の基準は定期考查となるが、出席状況、授業への取り組み、ノート・課題提出・実力考查などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地歴公民	地理A	2	選択必修	一斉	普通科	2

No. 7

地理A

教科書（発行所）	高等学校 新地理A（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）
教科書以外の教材	フォトグラフィア地理図説（とうほう）

目 標		現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景，日常生活との関連を踏まえて考察し，現代世界の地理的認識を養うとともに，地理的な見方や考え方を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学 期	4 月	I 世界の諸地域 ①中国 ②韓国	I それぞれの地域の自然や人間生活の諸事象について多面的に考察し，各地域の多様性を理解する。 ①中国 人口問題と民族問題，中国の急速な経済発展の要因と日本との関係について考察する。 ②韓国 朝鮮半島の文化的特徴と日本やアジアとの関係について考察する。 ③東南アジア 様々な民族・宗教・生活様式と農業・工業について考察する。 ④インド インドの人々の暮らしや経済発展，IT産業の成長について考察する。	1 学期中間考查
	5 月	③東南アジア ④インド ⑤ヨーロッパ ⑥ロシア	⑤ヨーロッパ 各国の特徴，EU，工業や農業について考察する。 ⑥ロシア 広大な国土を持つロシアの多様な自然環境とロシア経済の変化，地下資源について考察する。	
	6 月	⑦アメリカ合衆国 ⑧ラテンアメリカ ⑨オーストラリア II 地球的課題 ①世界の環境問題	⑦USA 政治・経済・軍事面で世界に大きな影響を与えている現状や複雑な人種構成，最先端ビジネスについて考察する。	
	7 月	②世界の人口問題 ③世界の都市・居住問題 ④世界の食糧問題 ⑤世界の資源・エネルギー問題	⑧ラテンアメリカ 多様な人種・民族構成，農牧業や鉱業の特徴について考察する。 ⑨オーストラリア 気候・地形と産業の関係を考察する。	1 学期期末考查
	8 月		II 現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し，その知識を身につける。	
2 ・ 3 学 期	9 月			
	10 月			
	11 月			
	12 月			
	1 月			
	2 月			
	3 月			
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・用語を覚えるのではなく，なぜそうなっているのかの疑問を大切にその用語を人に説明できるようにしよう。 ・丁寧な授業ノートを作ろう。ノートは自分に最も適した参考書になります。板書されたこと以外もメモすると良い。 ・蛍光ペン，色鉛筆，ノリ，ハサミを準備する。見てわかるノートにするために，ポイントをわかりやすくするために。 ・復習中心の学習をしよう。習った範囲を資料集やノートを見ながら自分で整理すると次の授業につながります。		
評価の観点		・現代世界の地理的な諸課題に対する関心と課題意識を高め，それを意欲的に追求し，国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。 ・現代世界の地理的事象から課題を見だし，それを地域性や歴史的背景，日常生活との関連を踏まえて多面的に考察し，国際社会の変化を踏まえて公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。 ・地図や統計，画像など地域に関する諸資料を収集し，有用な情報を選択して，読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ・現代世界の地理的な諸課題についての基本的な事柄や追求の方法を理解し，その知識を身につけている。		
評価の方法		評価は定期考查を基準とするが，出席状況，授業への取り組み，提出物なども含めて総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
地歴	地理B	3	選択必修	一斉	普通	2

No. 8

地理B

教科書（発行所）	新詳地理B（帝国書院）・新詳高等地図（帝国書院）
教科書以外の教材	新編地理資料2016（とうほう） サクシード地理（啓隆社） 地理用語集（山川出版社） 新地理の研究（啓隆社）

目 標		現代世界の地理的事象を、系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
1 学 期	4月			
	5月			
	6月			
	7月	I. さまざまな地図と地理的技能 i. 現代世界の地図 ii. 地図の種類とその利用 iii. 地図の活用	さまざまな地図や地球儀の特色について理解し、地図の読図、地理情報の地図化などの地理的技能を身に付ける。	第2回実力考查
	8月			
2 学 期	9月	II. 自然環境 i. 地形	世界の地形、気候などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活とのかかわりなどを考察するとともに、現代世界の環境問題について大観する。	2学期中間考查 第3回実力考查
	10月	ii. 気候		
	11月	iii. 環境問題		2学期期末考查
	12月	III. 資源と産業 i. 農林水産業と食糧問題	世界の農林水産業、エネルギー・鉱産資源、工業などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察するとともに、現代世界の食料問題、エネルギー・資源問題について大観する。	
	1月	ii. エネルギー・鉱産資源とその問題		第4回実力考查
	2月			学年末考查
3 学 期	3月	iii. 工業		
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・用語を覚えるのではなく、なぜそうなっているのかの疑問を大切に、人に説明できるようにする。 ・丁寧な授業ノートを作ろう。ノートは自分に最も適した参考書になります。板書されたこと以外もメモしよう。 ・蛍光ペン、色鉛筆、ノリ、ハサミを準備する。見てわかるノートにするために、図・表などを効果的に書いていこう。 ・復習中心の学習をしよう。習った範囲を資料集やノートを見ながら自分で整理すると次の授業につながります。		
評価の観点		・現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。 ・現代世界の地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 ・地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。		
評価の方法		評価は定期考查・実力考查を基準とするが、出席状況、授業への取り組み、提出物なども含めて総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学Ⅱ	2	必修	習熟度	普通	2

No. 9
数学Ⅱ(文系)

教科書(発行所)	高等学校 数学Ⅱ (数研出版)
教科書以外の教材	

目 標			いろいろな式、図形と方程式、指関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習のねらい	学習時期		学習内容と目標		考查等
	4・5月		第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式 実数の概念を複素数に拡張し、2次方程式における解や、高次方程式などについて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 複素数における考え方や体系に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識する。 2 複素数の概念を理解し、広く2次方程式への拡張を理解する。 3 高次方程式において、問題解決するために様々な定理などを正しく理解し、活用する。		1学期中間考查
	5・6月		第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを二直線の位置関係などの考察に活用する。 2 座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用する。 3 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めること。また、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりする。		
	6・7月		第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。 2 三角関数とそのグラフの特徴について理解する。 3 三角関数について、相互関係などの基本的な性質を理解する。 4 三角関数の加法定理を理解し、それを用いて2倍角の公式を導くことができる。		1学期期末考查
	9・10月		第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。 2 指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用する。 3 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をする。 4 対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用する。		2学期中間考查
	1・2月		第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求める。 2 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくこと。また、微分の考えを事象の考察に活用する。 3 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求める。 4 定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める。		学年末考查
			7月～8月前半は数学A、10月後半～12月は数学Bを学習する。		
先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方等)			○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかり身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え、理解することに集中する。		
定期 考 査	出題方針		教科書の例・例題・問・節末問題・章末問題及び宅習課題を中心に出題する。		
	範 囲	1学期中間	第2章 複素数と方程式		
		1学期期末	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数		
		2学期中間	第5章 指数関数と対数関数		
		学年末	第6章 微分法と積分法		
評価の観点 (評価の対象)			○関心・意欲・態度（授業時の学習の様子，提出物） ○数学的な見方や考え方（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查） ○数学的な技能（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查） ○知識・理解（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查）		
評価の方法			○具体的な評価は，定期考查，実力考查，授業の中での観察，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学Ⅱ	3	必修	一斉	普通	2

No. 10
数学Ⅱ(理系)

教科書(発行所)	高等学校 数学Ⅱ(数研出版)
教科書以外の教材	

目 標		いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学 習 の ね ら い	学習時期	学習内容と目標	考查等
	4 月	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式 第2節 高次方程式 整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解するとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。また、方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して2次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 1 3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をする。 また、整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算する。 2 等式や不等式が成り立つことを、それらの基本的な性質や実数の性質などを用いて証明する。	1学期中間
	5・6 月	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域 座標や式を用いて、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すこと。また、座標平面上の直線を方程式で表し、それを二直線の位置関係などの考察に活用する。 2 座標平面上の円を方程式で表し、それを円と直線の位置関係などの考察に活用する。 3 軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めること。また、簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりする。	1学期中間 1学期期末
	6・7 月	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解する。 2 三角関数とそのグラフの特徴について理解する。 3 三角関数について、相互関係などの基本的な性質を理解する。 4 三角関数の加法定理を理解し、それらを用いて2倍角の公式を導くことができる。	1学期期末
	9 月	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解する。 2 指数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用する。 3 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をする。 4 対数関数とそのグラフの特徴について理解し、それらを事象の考察に活用する。	2学期中間
	12・1 月	第5章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変換 第3節 積分法 微分・積分の考えについて理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求める。 2 導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかくこと。また、微分の考えを事象の考察に活用する。 3 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分を求める。 4 定積分を用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める。	学年末考查
		10月は数学A、10月～12月は数学Bを学習し、2月以降は、数学Ⅲを学習する。	
	先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方等)		○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え、理解することに集中する。
定 期 考 査	出題方針	教科書の例・例題・問・節末問題・章末問題及び宅習課題を中心に出题する。	
	範 囲	1学期中間	第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式
		1学期期末	第3章 図形と方程式 第4章 三角関数
		2学期中間	第5章 指数関数と対数関数
		学年末	第6章 微分法と積分法
評価の観点 (評価の対象)		○関心・意欲・態度（授業時の学習の様子、提出物） ○数学的な見方や考え方（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考查） ○数学的な技能（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考查） ○知識・理解（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考查）	
評価の方法		○具体的な評価は、定期考查、実力考查、授業の中での観察、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学Ⅲ	1	必修	一斉	普通	2

No. 11
数学Ⅲ

教科書（発行所）		高等学校 数学Ⅲ（数研出版）	
教科書以外の教材			
目 標		平面上の曲線と複素数平面，極限，微分法及び積分法についての理解を深め，知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを積極的に活用する態度を育てる。	
学習のねらい	学習時期	学習内容と目標	考查等
	2月	第1章 複素数平面 複素数平面，極座標・極形式の問題を通して，事象の考察に活用できるようにする。	学年末考查
	2・3月	第2章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	
		10月は数学A，4月～9月および12・1月数学Ⅱを学習し，10月～12月は数学Bを学習する。	
先生からのアドバイス (予習・復習の方法，授業の受け方，ノートの取り方等)		○あきらめずに粘り強く考え抜き，「自ら考え，自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに，自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に，復習に時間をかけ，知識をしっかり身につける。 ○授業では，ノートをとって安心しない。話をよく聞いて，考え，理解することに集中する。	
定期 考 査	出題方針		教科書の例・例題・問・節末問題・章末問題及び宅習課題を中心に出题する。
	範 囲	学年末	第1章 複素数平面 第2章 式と曲線
評価の観点 (評価の対象)		○関心・意欲・態度（授業時の学習の様子，提出物） ○数学的な見方や考え方（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查） ○数学的な技能（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查） ○知識・理解（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查）	
評価の方法		○具体的な評価は，定期考查，実力考查，授業の中での観察，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学A	2	原則必修	習熟度	普通	2

No. 12
数学A(文)

教科書（発行所）	数学A（数研出版）
教科書以外の教材	類比方式による数学I・A

目 標			整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学 習 の ね ら い	学習時期		学習内容と目標	考查等
	7・8月		第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節 整数の性質の活用 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 1 素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現すること。 2 整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求めること。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求めること。 3 二進法などの仕組みや分数が有限小数又は循環小数で表される仕組みを理解し、整数の性質を事象の考察に活用すること。	2学期中間考查
			4月～7月前半，9月～10月，1月～3月は数学Ⅱ，10月前半～12月は数学Bを学習する。	
	先生からの アドバイス (予習・復習の方法，授業の受け方，ノートの取り方等)		○あきらめずに粘り強く考え抜き，「自ら考え，自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに，自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に，復習に時間をかけ，知識をしっかりと身につける。 ○授業では，ノートをとって安心しない。話をよく聞いて，考え，理解することに集中する。	
定 期 考 査	出題方針		教科書の例・例題・問・節末問題・章末問題及び宅習課題を中心に出题する。	
	範 囲	2学期中間	第3章 整数の性質	
評価の観点 (評価の対象)			○関心・意欲・態度（授業時の学習の様子，提出物） ○数学的な見方や考え方（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查） ○数学的な技能（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查） ○知識・理解（授業時の学習の様子，提出物，定期・実力考查）	
評価の方法			○具体的な評価は，定期考查，実力考查，授業の中での観察，課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学A	2	必修	習熟度	普通	2

No. 13
数学A(理)

教科書（発行所）	高等学校 数学A（数研出版）
教科書以外の教材	類比方式による数学I・A

目 標		整数の性質について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を養い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学 習 の ね ら い	学習時期	学習内容と目標	考查等
	10月	第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 第2節 ユークリッドの互除法 第3節整数の性質の活用 整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 1 素因数分解を用いた公約数や公倍数の求め方を理解し、整数に関連した事象を論理的に考察し表現すること。 2 整数の除法の性質に基づいてユークリッドの互除法の仕組みを理解し、それを用いて二つの整数の最大公約数を求めること。また、二元一次不定方程式の解の意味について理解し、簡単な場合についてその整数解を求めること。 3 二進法などの仕組みや分数が有限小数又は循環小数で表される仕組みを理解し、整数の性質を事象の考察に活用すること。	2学期中間
		4月～9月、12月～1月は数学Ⅱ、10月～12月は数学B、2月～3月は数学Ⅲを学習する。	
	先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートを取り方等)	○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え、理解することに集中する。	
定期 考 査	出題方針	教科書の例・例題・問・節末問題・章末問題及び宅習課題を中心に出题する。	
	範囲	2学期中間	第3章 整数の性質
評価の観点 (評価の対象)		○関心・意欲・態度（授業時の学習の様子、提出物） ○数学的な見方や考え方（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考査） ○数学的な技能（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考査） ○知識・理解（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考査）	
評価の方法		○具体的な評価は、定期考査、実力考査、授業の中での観察、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学B	1	原則必履修	習熟度	普通	2

No. 14
数学B(文)

教科書（発行所）	数学B（数研出版）
教科書以外の教材	

目 標		数列又はベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学 習 の ね ら い	学習時期	学習内容と目標	考查等
	10・11月	第1章 ベクトルとその演算 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル及びベクトルの成分表示について理解すること。 2 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、それらを平面図形の性質などの考察に活用すること。 3 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを知ること。	
	11・12月	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項及び和を求めること。 2 いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解し、事象の考察に活用すること。 3 漸化式について理解し、簡単な漸化式で表された数列について、一般項を求めること。また、漸化式を事象の考察に活用すること。 4 数学的帰納法について理解し、それを用いて簡単な命題を証明するとともに、事象の考察に活用すること。	2学期期末考查
		4月～7月前半、9月～10月、1月～3月は数学Ⅱ、7月後半～8月は数学Aを学習する。	
	先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方等)	○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え、理解することに集中する。	
定期 考 査	出題方針	教科書の例・例題・問・節末問題・章末問題及び宅習課題を中心に出题する。	
	範囲	2学期期末	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル 第3章 数列
評価の観点 (評価の対象)		○関心・意欲・態度（授業時の学習の様子、提出物） ○数学的な見方や考え方（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考查） ○数学的な技能（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考查） ○知識・理解（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考查）	
評価の方法		○具体的な評価は、定期考查、実力考查、授業の中での観察、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
数学	数学B	1	必修	一斉	普通	2

No. 15
数学B(理)

教科書（発行所）	高等学校 数学B（数研出版）
教科書以外の教材	

目 標		数列又はベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。	
学習のねらい	学習時期	学習内容と目標	考查等
	10・11月	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 第2章 空間のベクトル ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 1 ベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル及びベクトルの成分表示について理解すること。 2 ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解し、それらを平面図形の性質などの考察に活用すること。 3 座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを知ること。	2学期期末
	11・12月	第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法 簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 1 等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項及び和を求めること。 2 いろいろな数列の一般項や和について、その求め方を理解し、事象の考察に活用すること。 3 漸化式について理解し、簡単な漸化式で表された数列について、一般項を求めること。また、漸化式を事象の考察に活用すること。 4 数学的帰納法について理解し、それを用いて簡単な命題を証明するとともに、事象の考察に活用すること。	2学期期末
		10月は数学A、4月～9月および12・1月は数学Ⅱを学習し、10月・11月は数学Bを学習する。	
	先生からのアドバイス (予習・復習の方法、授業の受け方、ノートの取り方等)	○あきらめずに粘り強く考え抜き、「自ら考え、自ら学ぶ」自学力を身につける。 ○面倒がらずに、自ら実際に計算して確かめる努力が大切である。 ○予習→授業→復習のサイクルを守るようにする。特に、復習に時間をかけ、知識をしっかりと身につける。 ○授業では、ノートをとって安心しない。話をよく聞いて、考え、理解することに集中する。	
定期 考 査	出題方針		教科書の例・例題・問・節末問題・章末問題及び宅習課題を中心に出题する。
	範囲	2学期期末	第1章 平面上のベクトル 第2章 空間のベクトル 第3章 数列
評価の観点 (評価の対象)		○関心・意欲・態度（授業時の学習の様子、提出物） ○数学的な見方や考え方（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考査） ○数学的な技能（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考査） ○知識・理解（授業時の学習の様子、提出物、定期・実力考査）	
評価の方法		○具体的な評価は、定期考査、実力考査、授業の中での観察、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	物理基礎(理)	2	選択必修修	一斉	普通	2

No. 16
物理基礎(理)

教科書（発行所）	物理基礎（数研出版）
教科書以外の教材	物理基礎研究ノート（博洋社） セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）

目 標		日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って実験や演習などを行う。物理学の基本的な概念や、原理・法則を理解し、物理学的に探求する能力・態度や、科学的な見方・考え方を身につける。 授業の進め方は、4月から2学期中間考査まで物理基礎を3単位で扱い、その後、物理を3単位で扱う。
学期	学習時期	学習内容と目標
一学期	4月	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 ・直線運動における変位、速度、加速度、速度の合成、相対速度などの運動の表し方を学び、速度・加速度の概念を理解する。 ・空気抵抗が無ければ、質量や体積によらずに様に自由落下運動をすることを理解する。 ・自由落下運動や鉛直投げ上げ運動の「時間」「速度」「位置」の関係式を理解する。
	5月 中間考査	第2章 運動の法則 ・力とは何か理解する。・重さと質量の違いを理解する。 ・固体には弾性があり、一般にはフックの法則に従うことを理解する。 ・力の合成、分解、つり合いなど、力の性質を理解する。・作用反作用の法則を理解する。 ・摩擦係数、浮力などのいろいろな力について理解する。・慣性の法則を理解する。 ・力と加速度の関係を理解し、運動の法則を理解する。 ・運動の法則を適用して運動方程式を立てて解き、力や加速度を求める。
	6月 定期考査	第3章 仕事と力学的エネルギー ・エネルギーと仕事の基礎概念を理解する。・運動エネルギーと位置エネルギーについて理解し、一定条件のもとで力学的エネルギーが保存することを理解する。 ・力学的エネルギーが保存することを利用し、運動を解析する。
	7月 期末考査	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー ・熱のマクロ的な意味、ミクロ的な意味。・熱容量と比熱について理解し、熱量保存の法則を理解する。
	8月 実力考査	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー ・熱容量と比熱について理解し、熱量保存の法則を理解する。 ・熱と仕事の関係及び熱力学の第一法則について理解する。
二学期	9月	第3編 波 第1章 波の性質 ・波の式 $v=f\lambda$ を理解する。 ・波には横波と縦波があることを理解し、縦波を横波に変換する方法を理解する。 ・単振動と正弦波。
	10月 中間考査 実力考査	第1章 波の性質 第2章 音 ・波の独立性と重ね合わせの原理があることを理解する。 ・定常波のでき方を理解し、性質を理解する。・音が波であり、音波の性質を理解する。 ・音の三要素を理解し、波の性質が音としてはどのような性質になるのかを理解する。
	11月 期末考査	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 ・摩擦電気・静電気。・電流と電気量について理解する。 ・オームの法則や電気抵抗の直列接続、並列接続、抵抗率、電力と電力量、ジュール熱について。・磁場と電流が作る磁場について理解する。・電流が磁場から受ける力について理解する。・電磁誘導について定性的に理解する。・モーターと発電機の原理について理解する。 ・直流と交流の違い、交流の実効値について理解する。・変圧器・電磁波の性質について。
	12月	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界 ・わたしたちの日常生活で使うエネルギーの源を理解する。 ・放射線、核エネルギー、原子力発電について、エネルギーの変換と保存について理解する。 ・物理の応用と日常生活、物理の未来について理解する。
三学期	1月	2学期期末考査以降は、「総合物理1」の教科書を扱う
	2月	
	3月	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		日頃から新聞、ニュースなどで物理的な話題に関心を示し創造性豊かな人間であるように心がけよう。 重要なのは、①授業、②授業の復習、③日課を真摯に取り組み、訂正までしっかり取り組む である。 復習は学習したその日に必ず行い、覚えるべき内容はその日に覚える努力をすること。日課を解く・教科書や研究ノートの問題を解くことで、自分が理解しているか図ることができる。授業ノートは要点を中心にし、授業での説明を聞き漏らさないこと。同じ授業は二度とできない。肝に銘じよ。その日のうちに理解する意識が重要である。
評価の観点		・関心・意欲・態度：(授業時の様子や、日課の取り組み等) ・思考・判断・表現：(授業時の様子や、日課の取り組みの様子、考査等) ・観察・実験の技能：(授業時の様子や、考査等) ・知識・理解：(授業、日課の取り組み、提出物、考査等)
評価の方法		○ 物理現象に対する日頃からの興味関心や態度を、授業への参加意欲から評価する。 ○ 単元ごとの復習をきちんとこなしているかを確認するために日課の提出を求める。 ○ 定期考査では基本事項、物理現象、物理的な考え方の定着度を測る問題を出題する。 ○ 実力考査では、基本事項を幅広い分野から再度出題するとともに、思考力、計算力をみる。

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	物理（理）	1	選択必修	一斉	普通	2

No. 17
物理(理)

教科書（発行所）	総合物理 1 （数研出版）
教科書以外の教材	物理研究ノート （博洋社） セミナー物理基礎＋物理 （第一学習社）

目 標		物理的な事物・現象に対する探求心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探求する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。 授業の進め方は、4月から2学期中間考査まで物理基礎を3単位で扱い、その後、物理を3単位で扱う。
学期	学習時期	学習内容と目標
一学期	4月	2学期期末考査までは、「物理基礎」の教科書を扱う
	5月	
	6月	
	7月	
	8月	
二学期	9月	
	10月	
	11月 期末考査	11月期末考査以降は、「総合物理1」の教科書を扱う
	12月	第1編 力と運動 第1章 運動の表し方 等速直線運動を中心に、変位と速度の定義、速度の合成・分解、相対速度について学ぶ。 加速度の定義と等加速度直線運動の公式について理解する。加速度の概念と等加速度運動の式を理解し、 $v-t$ グラフの読み書きができるようになる。
三学期	1月 実力考査	落体の運動（自由落下、鉛直投げ上げ、水平投射、斜方投射）について理解し、運動方程式をたて解を求める。 第2章 運動の法則 運動の3法則及び剛体にはたらく力について学び、重心の意味を理解する。
	2月 学年末考査	第3章 仕事と力学的エネルギー 仕事の定義や力学的エネルギー保存則や、それが成立する条件、エネルギーの原理等を復習する。
	3月	第4章 運動量の保存 運動量と力積の関係を理解し、そこから運動量保存則を導く。反発係数により、衝突の様子を表すことができることを学ぶ。
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		日頃から新聞、ニュースなどで物理的な話題に関心を示し創造性豊かな人間であるように心がけよう。重要なのは、①授業、②授業の復習、③日課を真摯に取り組み、訂正までしっかり取り組む である。復習は学習したその日に必ず行い、覚えるべき内容はその日に覚える努力をすること。日課を解く・教科書や研究ノートの問題を解くことで、自分が理解しているか図ることができる。授業ノートは要点を中心にし、授業での説明を聞き漏らさないこと。同じ授業は二度とできない。肝に銘じよ。その日のうちに理解する意識が重要である。
評価の観点		・関心・意欲・態度：(授業時の様子や、日課の取り組み等) ・思考・判断・表現：(授業時の様子や、日課の取り組みの様子、考査等) ・観察・実験の技能：(授業時の様子や、考査等) ・知識・理解：(授業、日課の取り組み、提出物、考査等)
評価の方法		○ 物理現象に対する日頃からの興味関心や態度を、授業への参加意欲から評価する。 ○ 単元ごとの復習をきちんとこなしているかを確認するために日課の提出を求める。 ○ 定期考査では基本事項、物理現象、物理的な考え方の定着度を測る問題を出題する。 ○ 実力考査では、基本事項を幅広い分野から再度出題するとともに、思考力、計算力をみる。

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 18
理科	化学（理系）	3	選択履修	一斉	普通	2	化学(理)

教科書（発行所）	東京書籍 化学					
教科書以外の教材	2016 化学研究ノート（博洋社） ニューグローバル化学基礎＋化学（東京書籍） 改訂版フォトサイエンス化学図録（数研出版） 新リピートノート化学③～④（浜島書店）					

目 標	1．物質の状態変化，状態間の平衡，溶解平衡および溶液の性質について理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる。 2．化学変化に伴うエネルギーの出入り，反応速度および化学平衡をもとに化学反応に関する概念や法則を理解できるとともに日常生活や社会と関連づけて考察できる。 3．無機物質の性質や反応を探究し，元素の性質が周期表に基づいて整理できることが理解できるとともに，日常生活や社会と関連づけて考察できる。					
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など			考查等
一学期	4 月	第2編 化学反応とエネルギー 2章 電池と電気分解	電池・電気分解についての原理を理解する。			実力考查
	5 月	1章 反応熱と熱化学方程式 第1編 物質の状態と平衡 1章 物質の状態	反応熱の種類を知り，熱化学方程式で表すことを理解する。 物質の状態変化とエネルギーの出入りについて理解する。			中間考查
	6 月	2章 気体の性質	気体に関する各法則について理解する。 理想気体と実在気体の違いについて理解する。			
	7 月	3章 溶液の性質	溶解のしくみを理解する。 溶液の特性を知り，各法則について理解する。 （実験）コロイド溶液			期末考查
	8 月	4章 固体の構造	各結晶の種類について理解する。 単位格子の長さや原子半径について理解する。			実力考查
二学期	9 月～10 月	第3編 化学反応の速さと平衡 1章 化学反応の速さ 2章 化学平衡	反応速度の表し方を理解する。 反応速度への影響を与える因子について理解する。 化学平衡状態について理解する。 平衡移動とルシャトリエの原理について理解する。			中間考查 実力考查
	11 月～12 月	3編 水溶液中の化学平衡	電離平衡について理解する。 塩の加水分解とそのしくみを理解する。			期末考查
三学期	1 月	第4編 無機物質 1章 周期表と元素 2章 非金属元素の単体と化合物	周期表の元素の分類を確認する。 非金属元素の特性を知り，単体および化合物の性質について理解する。			実力考查
	2 月	3章 典型金属元素の単体と化合物	金属元素の特性を知り，単体および化合物の性質について理解する。			学年末考查
	3 月	4章 遷移元素の単体と化合物 5章 無機物質と人間生活				
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		・授業を重視し，板書はスピーディーに行う。 ・先生の話をよく聞いて，重要と思われるものはメモをとる。 ・復習を行い，分からないものをそのままにしておかない。 ・課題等の提出物は必ず期限内に出す。 ・教材の忘れ物をしない。				
評価の観点		①化学に対する関心，意欲，態度。 （常に向上心を持って，ひたむきにそして誠実に努力する姿勢を大切にしたい。） ②化学に対する思考，判断，表現力。 （ただ単に暗記するのではなく，常に関連分野とのつながりを考え，その意味を理解するようにしたい。）				
評価の方法		●下記の(1)～(5)の項目を，評価の観点別(関心・意欲・態度，思考・判断，観察・実験の技能・表現，知識・理解)に評価します。各学期の成績はそれらの評価から総合的に判断します。 (1)授業への取り組み 授業に対する姿勢，学習態度，物理への関心等で判断する。評価の観点のうち，特に関心・意欲・態度の項目を評価する。 (2)ノートの記載内容 授業内容を適切にまとめているか，科学的・化学的な思考ができていないか等を評価する。 (3)観察・実験等 観察・実験に対する姿勢，予想や考察，器具の操作，報告書等から評価する。 (4)教科書・問題集の問題 各問題への取り組み，取り組んだ内容から評価する。 (5)実力・定期考查 学習内容に合わせて問題を出題する。評価の観点のうち，思考・判断，知識・理解に関する配分が最も大きい。				

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	生物基礎（文）	2	選択必修	一斉	普通	2年

No. 19

生物基礎(文)

教科書（発行所）	高等学校理科用 生物基礎（東京書籍）
教科書以外の教材	ニューステージ 新生物図表 生物基礎研究ノート（博洋社） セミナー生物基礎＋生物

目 標		1 生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対しての興味・関心を高める。 3 観察、実験を通して生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 4 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	第1編 生物の特徴	- 地球には、多様な生物が生息していることに気づき、また共通に持つ特徴をあげることによって「生きている」とはどういうことであるか理解する。 - エネルギーの視点で生命を捉えることができる。	中間考查
	5月	1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー		
	6月	第2編遺伝子とそのはたらき	次世代に情報をつたえるのが遺伝子であり、その役割をDNAが担うことを理解する。	
	7月	1章 生物と遺伝子 2章 遺伝子の分配	遺伝情報が正確に伝わることで種として維持できていることを理解する。	期末考查
	8月	3章 遺伝情報とタンパク質の合成	- DNAの複製は共通な特定のパターンがあること、分裂後均等に染色体が分けられることを理解できる。 - 遺伝情報がタンパク質に形成されるまでの流れを理解できる。	第2回実力
二学期	9月			
	10月	第3編生物の体内環境の維持 1章 体内環境	恒常性維持に体液の循環の重要性を学び、循環を心臓を中心とする循環系に依存することを理解する。	
	11月	2章 体内環境の調節	肝臓、腎臓を中心に恒常性の維持への関与を学習する。	期末考查
	12月		内部環境は自律神経や内分泌系が間脳の支配下連携し調節されていることを理解できる。	
三学期	1月	3章 免疫	- 病原体を排除する仕組みについて理解できる。 - 免疫が恒常性の一つであることを理解する。	第3回実力
	2月			学年末考查
	3月	2年次の復習	演習を中心に復習	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		予習よりも復習を重視してください。ノートは黒板に板書したことだけではなく、具体例など口頭での説明もメモを取るといいでしょう。生物は暗記科目だと考えている生徒もいますが、暗記では絶対に点は取れません。入試では論理的思考が問われます。常に内容を理解し、その理由や意義を考えるようにしてください。資料集の活用も重要です。		
評価の観点		○生物学に対する関心、意欲、態度。 ○基礎的知識の習得 ○科学的、論理的な思考力 (ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解して欲しい。)		
評価の方法		定期考查、実力考查、課題提出などの提出状況 (課題提出は期限を守る。ただ終わらせればよいという考えではなく、確実に理解しながら取り組んで欲しい。)		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	生物基礎（理）	2	選択必修履修	一斉	普通	2

No. 20

生物基礎(理)

教科書（発行所）	高等学校理科用 生物基礎（東京書籍）
教科書以外の教材	ニューステージ 新生物図表 生物基礎研究ノート（博洋社） セミナー生物基礎＋生物

目 標		1 生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対しての興味・関心を高める。 3 観察、実験を通して生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 4 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等	
一学期	4 月	第1編 生物の特徴 1章 生物の多様性と共通性 2章 生命活動とエネルギー	・地球には、多様な生物が生息していることに気づき、また共通に持つ特徴をあげることによって「生きている」とはどういうことであるか理解する。 ・エネルギーの視点で生命を捉えることができる。	中間考查	
	5 月	第2編遺伝子とそのはたらき 1章 生物と遺伝子 2章 遺伝子の分配	・次世代に情報をつたえるのが遺伝子であり、その役割をDNAが担うことを理解する。 ・遺伝情報が正確に伝わることで種として維持できていることを理解する。		
	6 月	3章 遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの複製は共通な特定のパターンがあること、分裂後均等に染色体が分けられることを理解できる。 ・遺伝情報がタンパク質に形成されるまでの流れを理解できる。		
	7 月	第3編生物の体内環境の維持 1章 体内環境	・恒常性維持に体液の循環の重要性を学び、循環を心臓を中心とする循環系に依存することを理解する。 ・肝臓、腎臓を中心に恒常性の維持への関与を学習する。	期末考查	
	8 月	2章 体内環境の調節	・内部環境は自律神経や内分泌系が間脳の支配下連携し調節されていることを理解できる。	第2回実力	
二学期	9 月	3章 免疫	・病原体を排除する仕組みについて理解できる。 ・免疫が恒常性の一つであることを理解する。		
	10 月	第4編生物の多様性と生態系 1章 植生の多様性と分布	・集団として生命をとらえ、さらに環境を含めた視野で自然界を理解する。 ・植生と環境とのかかわりを理解する。	中間考查	
	11 月	2章 気候とバイオーム	・世界各地や日本の植生が気候と密接に関係し、分布の様子に各地域に特徴が見られることを理解する。	第3回実力	
	12 月	3章 生態系とその保全	・生態系と生物は密接な関係を持ち、生態系を維持することの重要性を理解する。 ・生態系の保持に積極的に関わろうとする姿勢をもつ。	期末考查	
三学期	1 月				
	2 月				
	3 月				
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		予習よりも復習を重視してください。ノートは黒板に板書したことだけではなく、具体例など口頭での説明もメモを取るといいでしょう。生物は暗記科目だと考えている生徒もありますが、暗記では絶対に点は取れません。入試では論理的思考が問われます。常に内容を理解し、その理由や意義を考えるようにしてください。資料集の活用も重要です。			
評価の観点		○生物学に対する関心、意欲、態度。 ○基礎的知識の習得 ○科学的、論理的な思考力 (ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解して欲しい。)			
評価の方法		定期考查、実力考查、課題提出などの提出状況 (課題提出は期限を守る。ただ終わらせばよいという考えではなく、確実に理解しながら取り組んで欲しい。)			

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
理科	生物（理）	1	選択履修	一斉	普通	2

No. 21

生物(理)

教科書（発行所）	生物（東京書籍）
教科書以外の教材	ニュースページ 新生物図表 生物研究ノート（博洋社） セミナー生物基礎＋生物

目 標		1 生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 2 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対しての興味・関心を高める。 3 観察、実験を通して生物や生命現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解する。 4 生物や生命現象の中から問題や課題を見出し、観察、実験などを通して探究する姿勢を身につける。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
前期	4 月			
	5 月			
	6 月			
	7 月			
	8 月			
	9 月			
後期	1 0 月			
	1 1 月			
	1 2 月			
	1 月	第 1 編 生命現象と物質 1 章 生体物質と細胞 2 章 生命現象を支えるタンパク質	・生命を構成する物質について学習し、その特性が生命を支えることを理解する。 ・タンパク質の性質が生命活動の多様な部分を占めていることを理解する。	学年末考查
	2 月	3 章 代謝とエネルギー 第 2 編 遺伝子のはたらき 1 章 遺伝情報の発現	・ A T P が生命活動のエネルギーのやりとりに使われていることを理解する。 ・生物基礎の学習内容をさらに発展的に扱う。	
	3 月	2 章 遺伝子の発現調節 3 章 バイオテクノロジー	・発現の調節の仕組みおよびそのことにより代謝の調節につながることを理解できる。 ・遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解する。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		予習よりも復習を重視してください。ノートは黒板に板書したことだけではなく、具体例など口頭での説明もメモを取るといいでしょう。生物は、生物基礎に比べ、内容が難しくかつ量も多いので日々の学習が重要になります。問題演習、資料集の活用も必要です。		
評価の観点		○生物学に対する関心、意欲、態度。 ○基礎的知識の習得 ○科学的、論理的な思考力 (ただ単に暗記するのではなく、常に関連分野とのつながりを考え、その意味を理解して欲しい。)		
評価の方法		定期考查、実力考查、課題提出などの提出状況 (課題提出は期限を守る。ただ終わらせばよいという考えではなく、確実に理解しながら取り組んで欲しい。)		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 22
理科	地学基礎	2	必修	一斉	普通科	2	地学基礎

教科書（発行所）	地学基礎（実教出版）
教科書以外の教材	地学基礎研究ノート（博洋社） ニューステージ新地学図表（浜島書店）

目 標		・日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高める。 ・地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 ・探究的な活動を通して、地学的に探究する能力と態度を育てる。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4 月	第 1 章 地球の構成と運動 第 1 節 地球の形と大きさ 第 2 節 地球内部の構成	・地球の形の特徴と大きさについて理解させる。 ・地球内部の層構造とその状態を理解させる。 ・堆積岩・火成岩・変成岩の形成および特徴について理解させる。	第 1 回実力考查
	5 月	第 3 節 火山と地震 第 4 節 プレートの運動	・火山噴火と火山の形、地震発生の仕組みと地震波の性質を理解させる。 ・プレートの分布と境界に伴う地殻変動および大地形の形成について理解させる。	中間考查
	6 月	第 2 章 地球の変遷 第 1 節 地層と化石	・地層が形成されるしくみと地質構造について理解させる。 ・化石の種類と地質時代区分について理解させる。	期末考查
	7 月	第 2 節 古生物の変遷と地球環境	・古生物の変遷と地球環境がどのように移り変わってきたのか理解させる。 ・地球の誕生から生物の出現にいたる地球の歴史について理解させる。	
	8 月			
	第 2 回実力考查			
二学期	9 月	第 3 章 大気と海洋 第 1 節 大気構造と運動	・大気構造と組成について理解させる。 ・水の循環と対流圏の気象について理解させる。水蒸気の役割について理解させる。	中間考查
	10 月	第 2 節 大気の大循環	・地球の熱収支について全体・緯度別の関係を理解させる。 ・大気の大循環とそれによる地球規模の熱の輸送について理解させる。 ・日本の四季の気象について特徴を理解させる。	第 3 回実力考查
	11 月	第 3 節 海洋の構造と海水の運動	・海水の運動とそれによる地球規模の熱の輸送について理解させる。 ・地球の水の循環について大気・海洋の関係を理解させる。	期末考查
	12 月	第 4 章 太陽系と宇宙 第 1 節 太陽系の中の地球	・太陽系の誕生と天体の特徴について理解させる。	
		第 2 節 太陽とその進化	・原始地球の形成と生命の誕生について理解させる。 ・太陽の表面の様子・活動現象と太陽のエネルギー源について理解させる。 ・恒星としての太陽の明るさと色について理解させ、さらに太陽の誕生と進化を例に恒星の進化について理解させる。	第 4 回実力考查
三学期	2 月	第 3 節 宇宙のすがた	・宇宙の誕生と銀河の分布について理解させる。 ・銀河とまわりの銀河について理解させる。	学年末考查
	3 月	第 5 章 地球の環境 第 1 節 日本の自然環境 第 2 節 地球環境の科学	・人類が自然から多様な恩恵を受けていることを理解させる。 ・日本の自然の特徴と自然がもたらす災害と防災について理解させる。 ・地球環境に及ぼす人間活動の影響について理解させる。	
	担当者からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		・学習の基本は予習・授業・復習である。特に授業に集中し、復習(復習ノート)で基本事項をしっかりと押さえる。 ・日常生活で起こるさまざまな自然現象に興味・関心をもち、その法則性について考える態度をもつ。 ・図表・写真等と関連づけて読み、基本事項を覚え、疑問に思ったことを確かめ、より深い理解をもつ。 ・日ごろから地球・自然・宇宙に関するニュース・情報に関心をもつ。	
評価の観点		・関心・意欲・態度(授業時の学習態度, 提出物) ・思考・判断・表現(定期考查・実力考查, レポート, 提出物) ・観察・実験の技能(観察・実験に対する姿勢, レポート) ・知識・理解(授業時の学習態度, 定期考查・実力考查, 小テスト, 提出物)		
評価の方法		・上記の 4 つの観点に基づいて, 定期考查・実力考查, 提出物(復習ノート, 課題)等の提出状況, 出欠状況等を総合的に評価します。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
保健体育	体 育	3	必修	種目選択	普通	2

No. 23

体育

教科書（発行所）	ステップアップ高校スポーツ 2015 (大修館)
教科書以外の教材	

目 標		1. 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで運動し、公正、協力、責任などの態度を身につける。 2. 自己やグループの能力や運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫し、必要な技能や体力を高めるために運動の合理的な行い方を身につける。 3. 選択した運動種目の技術や戦術及び規則などを理解し、ゲーム・審判ができるようになる。 4. 現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、スポーツとのかかわり方や豊かなスポーツライフを設計し実践していく方法を身につける。		
1 学 期	4月～7月	①オリエンテーション ②体づくり運動 ③新体力テスト ④選択A バドミントン・卓球 ソフトテニス ⑤水泳 体操	「体育学習」の意義や内容、評価の方法を理解することで、活動内容が深まっていく過程とさらに楽しむための工夫ができる。 自己の体力や生活に応じて、心と体をほぐしたり体力を高める運動を行うことで、健康を保ったり体力の向上が図れる。 新体力テストをとおして、自己の現在の体力を把握し、よりよく体力を高めるために自己の生活の中で計画的に実践していく資質や能力を養うことができる。 自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。 各自の能力に応じた泳法をマスターし、いろいろな泳法で早く泳ぐなど、記録向上の喜びや競技の楽しさを味わう。集団行動や、ラジオ体操第2など、基本的な体の動かし方を身につける。	
2 学 期	8月～12月	⑥陸上A 短距離走・リレー ⑦選択B バレーボール・ソフトボール・テニス ⑧陸上B 長距離走	各自の能力に応じた走法をマスターし、記録向上や競争の楽しさを味わい各種目特有の技術を高めることができる。 自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。 効率のよいフォームをマスターし、ペース配分などを工夫し記録向上や競争の楽しさを味わうことができる。	
3 学 期	12月～3月	⑨選択C バスケットボール・サッカー・テニス ⑩体育理論	自分の興味にあった種目を選択し、基本的な技術を習得するとともにグループで目標・計画を立て、安全に配慮した効果的な練習と協力してゲーム・審判・評価等の活動ができる。 理論を学習することで、効率よく運動に取り組むことができる。	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		1. 運動の楽しさを味わうために自ら進んで活動することが求められています。運動が苦手な人も、これまでの経験からくる運動嫌いのイメージや苦手意識に固執することなく、新たな気持ちで授業に臨むことから始めましょう。 2. 自分と仲間の持つ課題を見つけようとする意欲が大切です。自分だけに留まらず仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つける努力をしましょう。また、自分と仲間の現状を見つめることができる感性を身につけましょう。 3. 体育にとっての「学力」とは、基礎的な知識・技能のもとに意欲を持って「スポーツを実践する力」です。日頃のスポーツ実践に心掛けましょう。 4. 授業はチャイムと同時に始まります。移動は休み時間に完了し、見学者は授業前に担当者に申し出て指示を受けます。また、服装は学校指定の体育服を着用し、こまめな洗濯で衛生面にも留意しましょう。貴重品の管理は自己管理が原則です。		
評価の観点		「関心・意欲・態度」（30％）・・・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動をしようとしているか。公正、協力、責任などの社会的態度が身についているか。健康や安全に留意して運動しようとしているか。 「思考・判断」（30％）・・・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出しているか。課題の解決を目指して、活動の仕方を考え工夫しているか。 「運動の技能」（20％）・・・自己の能力と運動の特性に応じた課題解決を目指して運動を行い、技能を高めているか。 「知識・理解」（20％）・・・社会の変化とスポーツ・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。		
評価の方法		4つの観点に基づいて評価された前・後期と各領域（各運動や理論）の成績及び体育行事の取り組み方・結果分析等を総合して学年の成績とします。学年の評定は、他教科に準じて5段階によって示されます。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
芸術	音楽Ⅱ	2	選択必修	一斉	普通	2

No. 25

音楽Ⅱ

教科書（発行所）	音楽Ⅱ Tutti（教育出版社）
教科書以外の教材	Music Note（九州高校音楽研究会） Classic Guitar Course 1（ヤマハ ミュージックメディア）

目 標		音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽および芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	世界の音楽（鑑賞）1 音楽Ⅰでの学習をさらに深め、音楽と文化の関わりに興味を持つ。 世界の音楽（歌唱）1 音楽Ⅰで修得した正しい発声法をさらに磨く。		実力考查
	5月	ギター奏法の基礎 1 音楽Ⅰで学習したギター奏法を、さらに充実させる。 世界の音楽（鑑賞）2 音楽と文化の関わりに興味をもつとともに鑑賞の能力を高め、豊かな中間考査育てる。		
	6月	世界の音楽（歌唱）2 音楽Ⅰで修得した正しい発声法をさらに磨く。 ギター奏法の基礎 2 ギター奏法を、さらに充実させ、個々の技術を伸ばす。		
	7月	舞台芸術～オペラ・オペレッタの楽しみ（鑑賞） 総合芸術への興味・関心を深める。 ギター奏法基礎 3 ギター奏法の確認テスト 歌唱 正しい発声法の実技テスト		期末考査
	8月			実力考査
二学期	9月	ギター奏法の基礎 4 ギター奏法をさらに充実させ、個々の技術を伸ばし、後期のアンサンブルに生かす。		
	10月	合唱の楽しみ 2 正しい発声法をさらに充実させ、合唱の楽しさを知る。 アンサンブル 1 グループ学習で、創作とアンサンブルに取り組む。		中間考査 実力考査
	11月	アンサンブル 2 グループで協力しながら、創作・アレンジ・アンサンブルに取り組む。 ギター実技テスト		期末考査
	12月	合唱の楽しみ 2 個々の積極的な活動により、合唱を充実させ、その楽しさを味わう。		
三学期	1月	世界の音楽（鑑賞）4 我が国の伝統音楽に触れることにより、より広い視野に立ち、世界の文化を理解する。 アンサンブル 3 グループで協力しながら、創作・アレンジ・アンサンブルに取り組む。		実力考査
	2月	アンサンブル 4 今までに学習したものを全てを基礎に、より発展的な活動を展開し、アンサンブルの楽しさと感動を体験する。		学年末考査
	3月	総合（鑑賞） グループごとに学習の成果を発表し、相互鑑賞する。		
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		普段の授業に積極的に参加してください。その中で説明することをヒントにしていけば授業が楽しくなります。ノートやファイルの整理は、丁寧にわかりやすい形を自分で作り上げてあげてください。		
評価の観点		①関心・意欲・態度：音楽、音楽文化に関心を持ち、表現や鑑賞に取り組んでいるか。 ②表現の創意工夫：音楽の要素を知覚し、感受しながら、表現の工夫や意図をもっているか。 ③表現の技能：創意工夫を生かし、表現技能を身に付け、創造的表現がなされているか。 ④鑑賞の能力：表現の創意工夫に基づき、音楽を解釈また価値を考え、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっているか。		
評価の方法		前期の実技については、授業の中で簡単なテストを実施します。 後期のアンサンブルも授業の中で評価していきます。 ノートやファイルをしっかりと整理して定期的に提出して評価していきます。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
芸術	美術Ⅱ（文）	2	選択必修修	一斉	普通	2

No. 26

美術Ⅱ

教科書（発行所）	美術2（光村）
教科書以外の教材	

目 標		美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など		提出物
一学期	4月	オリエンテーション デザイン 「伝統文様を用いた 継ぎ紙風平面構成」	伝統文様を用いて、金箔を貼った小さな屏風に平面構成を行う。日本美術史・障壁画について知り、余白と空間の活かし方を学習する。参考作品「風神雷神図」「紅白梅図」また、模写を作品の一部として取り入れる事で、日本美術についての関心を高める。 ・伝統文様の種類 ・家紋のデザイン ・デザインの構成要素 ・平面構成の色彩配置 ・色の効果・トーン配色 ・古典模写 ・箔張り ・アイデアスケッチ ・着彩（アクリルガッシュ） ・作品鑑賞		スケッチブック・ファイル・作品提出
	5月				
	6月				
	7月	立体 「自我像を造ろう」	見慣れている自身の形態をよく観察することで、立体的な造形表現に関する関心を高める。また、対象をデフォルメして捉える事で生まれるユニークな表情を捉え、自身の作品に活かせるようにする。 ・キャラクターとデフォルメ ・写真撮影（正面・側面から） ・自画像（デッサン） ・アイデアスケッチ（ポーズ） ・デフォルメをする ・三面図の制作（重心・バランス） ・頭部制作 ・身体部分制作 ・着彩（アクリルガッシュ） ・ニス塗装 ・仕上げ ・作品鑑賞		
	8月				
二学期	9月				スケッチブック・ファイル・作品提出
	10月	デザイン 「オリジナルマークデザイン」	自分の名前、部活動、好きなもの（こと）などを手がかりに、オリジナルのマークを制作する。CIの考え方をもとにマークデザインの制作行程について学習する。 ・マークデザインの歴史 ・マークデザインの行程 ・CIについて ・アイデアスケッチ ・着彩（アクリルガッシュ） ・作品鑑賞		
	11月				
	12月	絵画「想像の世界へ～想像上の世界にいる、自画像の制作」（ペン画・油彩画）	言葉や夢、物語の持つ世界を手がかりに、自分の想像した世界にいる自画像を描く。下書きとしてペン画を制作する中でイメージを探る。空想表現に基づく作品を参考にする（横尾忠則、石田徹也など）また、お互いの作品を鑑賞する中で、自己の内面世界に気付く。 ・空想表現による作品鑑賞 ・ブレインストーミング ・箱庭で自身のイメージを捉える。イメージを伝える色と光 ・地平線と目線（空間の設定） ・人物の描き方（比率・顔） ・人物画の構図（ポーズ・角度） ・明暗の設定（白黒のバランス） ・ハッチング技法 ・光源の設定 ・鉛筆による下描き ・レンブラントの光源設定 ・質感を表現する様々な「線」 ・油彩画自画像制作 ・仕上げ ・作品鑑賞		
三学期	1月				スケッチブック・ファイル・作品提出
	2月				
	3月				
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		①表現や鑑賞の活動において、自身の考えや感想を文章や言葉にすることを心がけましょう。 ②毎時間集中して計画的に制作に取り組むことが必要です。授業を楽しむ姿勢を持ちましょう。 ③制作に行き詰まったり、疑問点が出てきた場合は、積極的にアドバイスをもらいましょう。 ④準備や片付けも授業の一環です。道具は大切に扱い、もとあった場所に整然と美しく片付けましょう。			
評価の観点		①関心・意欲・態度…課題内容に対し、興味関心を持ち、主体的に活動に取り組むことができたか。 ②発想や構想の能力…表現形式の特性を生かし、工夫して創造的な表現の構想を練ることができたか。 ③創造的な技能…必要な技能を身に付け、感性を働かせ制作意図にあった方法を創意工夫できたか。 ④鑑賞の能力…作品の良さや美しさ、心情や意図、表現の工夫などを感じ取り、味わうことができたか。			
評価の方法		評価の観点を基に、授業への取り組み（出席状況、授業態度、活動への参加状況）、授業作品・スケッチブック（制作意図の理解、創意工夫、感性を働かせた表現等）、ファイル提出（授業に関する反省プリント、鑑賞）を総合的に判断して評価する。			

教科名		科目名		単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次	No. 27
芸術		書道Ⅱ		2	選択必修	一斉	普通科	2 年	書道Ⅱ

教科書（発行所）			「 書 Ⅱ 」 （教育図書）						
教科書以外の教材									

目 標			(1) 書道に対する興味・関心を深め、意欲的に取り組む態度を身につけます。 (2) 書道の基礎的・基本的な知識や技術を身につけるとともに、さまざまな表現技法を学びます。 (3) 多くの作品を鑑賞しながら書作品の良さや美しさを理解し、書道を愛好する心情を育みます。						
学期	月	時間	学 習 内 容 と 学 習 の ね ら い					備 考	
一 学 期	4	2	1 授業ガイダンス ・書道Ⅱの学習内容、授業の進め方、取り組む姿勢について理解します。 ・用具・用材について理解します。					個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。	
	5		表 現		鑑 賞				
	4		2 硬筆の学習 ・硬筆の特性を理解し、実用書を学習します		硬筆作品の特徴を理解します。				
	6	10	3 篆書の学習 ・篆書の古典を通して学習します。 ・篆書の表現技法を習得し		古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・泰山刻石 ・石鼓文				
	7	10	4 隸書の学習 ・隸書の古典を通して学習します。 ・隸書の表現技法を習得します		古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・曹全碑 ・乙瑛碑				
二 学 期	9	10	5 草書の学習 ・草書の古典を通して学習します。 ・草書の表現技法を習得します。		古典を鑑賞し、その特徴を理解します。 ・書譜 ・自叙帖			個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。	
	10								
	11	20	6 創作の学習（漢字） ・漢字1字を半紙に創作します。 ・漢字1～2字を色紙に創作します。 ・漢字4字句を条幅四つ切りに創作します。		参考作品を鑑賞し、字形の変化、線の特徴、文字の構成、落款(名前)の位置、全体の構成等を理解します。				
	12								
三 学 期	1	8	7 創作の学習（漢字仮名交じり文） ・漢字仮名交じりの語句を半紙に書く		参考作品を鑑賞し、全体の構成や落款の位置を理解します。			個別に添削を受けます。 清書作品を提出します。	
	2	4	8 創作の学習（仮名） ・和歌一首を半紙に創作します。		参考作品を鑑賞し、全体の構成を理解する。				
	3	2	9 まとめ ・制作した自分の作品を通して、授業の成果を振り返ります。 ・自分の作品やお互いの作品をじっくり鑑賞します。						
先生からのアドバイス (授業の進め方)			書道では主に毛筆の特性を生かしてさまざまな表現の学習をします。毛筆で文字を書く学習を継続的に取り組むことにより、次第にその扱いにも慣れてきて多様な表現ができるようになり、書道が楽しくなってきます。積極的な粘り強い取り組みが望まれます。						
評価の観点			(1) 書への関心・意欲・態度（書への関心を持ち、主体的かつ意欲的に取り組もうとしている。） (2) 書表現の構想と工夫（自らの感性と意図に基づいて構想し、表現を工夫している。） (3) 創造的な書表現の技能（書のさまざまな表現技法を生かし、効果的な表現をしている。） (4) 鑑賞の能力（書の伝統や文化について理解し、書の良さと美しさを味わっている。）						
評価の方法			(1) 授業中の取り組む姿勢や意欲などを評価します。 (2) 添削等の個別指導をおこない、練習の過程を評価します。 (3) 提出した清書作品で、表現技法の理解や到達度、作品としての完成度を評価します。						

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	3	必修	一斉	普通科	2

No. 28

コミュⅡ(理)

教科書（発行所）	Power On Communication English Ⅱ（東京書籍）
教科書以外の教材	スーパーアンカー英和辞典（学研） Forest（桐原書店） 英作基本文例600（啓隆社）

目 標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを明確にしたり適切に伝えたりする能力を伸ばす。			
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月 Lesson1	What Do You eat With?	ナイフとフォークと箸の歴史 （食文化について調べて発表する） 関係副詞where/ while/ when（+S+V）	実力考查
	5月 Lesson2 Lesson3	Wrapping Culture A Story about Yaku-Sugi Cedars	分詞構文 / SVOC(=過去分詞) / 形式目的語 It is(was)said+that節 / 関係代名詞whoの非制限用法 関係代名詞whichの非制限用法	中間考查
	6月 Lesson4	Interview with Anyango	It seems that S+V / SV00(=if/whether節) SV(be動詞) C(=whether 節) / 完了不定詞	
	7月 Reading1	After Twenty Years	短編小説を英語で読んでみよう！	期末考查
	8月	英語の読み物		実力考查
二学期	9月 Lesson5	Vegetable Factories: A New Approach to Agriculture	進行形の受け身 / 関係代名詞what / 未来完了形 譲歩を表す副詞節	
	10月 Lesson6	The Power of Color	色が人間心理に及ぼす影響 同格を表す接続詞that / SV(=have, let, make)OC(=動詞の原形) 関係代名詞whoseの制限用法 / propose / orderなどがthat SV	中間考查 実力考查
	11月 Lesson7	What Is Going On in Tuvalu?	SV(=have, get, make)OC(=過去分詞) 過去完了進行形 / プレゼンテーション	期末考查
	12月 Lesson8	Humpback Wales: A life of Competition and Cooperation	SV(=知覚動詞) +O+C(=動詞の原形) 付帯状況を表すwith / 前置詞+関係代名詞	
三学期	1月 Lesson9	From Owning to Sharing	形式目的語it (=that節 / 倍数表限 / 分詞構文(過去分詞))	実力考查
	2月 Lesson10	I Promise to Clean Up Japan Once and for All	強調構文 / 助動詞+have+過去分詞 仮定法過去完了	学年末考查
	3月 Reading2	The Choctaw's Gift to the Irish	アメリカ先住民チョクトー族と、アイルランドの人々	
先生からのアドバイス 授業の進め方 (予習・復習の仕方等)		- 予習→授業→復習のサイクルを確立する。（小テストは8割以上得点できるようにして取り組む） - 授業中は、予習段階で分からなかったところを理解し、積極的に英語を用いること。 - 復習はその日のうちに済ませ、不明なところはそのままにせず、積極的に質問する。 - 自宅学習を継続する。（平日は1時間、土日はそれぞれ2時間程度は最低でも必要です。）		
評価の観点		- コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業時の積極性、TTへの取り組み、提出物） - 外国語を表限する能力（授業時の学習態度、提出物、小テスト、定期・実力考查） - 外国語を理解する能力（授業時の学習態度、提出物、小テスト、定期・実力考查） - 言語や文化についての知識・理解（授業時の学習態度、提出物、小テスト、定期・実力考查）		
評価の方法		- 定期考查6割、実力考查2割、平常点2割で評価します。 - 定期考查や実力考查の問題は上記の4つの観点に基づいて作成します。 - 平常点は提出物や小テスト、授業中の活動の様子や成果を対象とします。		

教科名	科目名	単位数	履修形態	授業形態	科	履修年次
外国語	英語表現Ⅱ	2	必修	習熟度	普通科	2年

No. 29

英表Ⅱ

教科書（発行所）	MY WAY English Expression Ⅱ（三省堂）
教科書以外の教材	スーパーアンカー英和辞典（学研），総合英語 Forest（桐原書店） 英作基本文例600（啓隆社）

目 標		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす。		
学期	学習時期	学習事項	学習のねらい・提出物・実験内容など	考查等
一学期	4月	1 英語表現Ⅰ（時制）の復習 2 現在形・現在進行形 / その他の進行形の用法		実力考查
	5月	3 未来完了形 / その他の完了進行形 4 Review Exercises1 / 英語表現Ⅰ（助動詞と受動態）の復習 5 助動詞1（義務・必要性）		中間考查
	6月	6 助動詞2（過去の状態 / 助動詞を用いた慣用表現） 7 さまざまな受動態の表現 8 Review Exercises 2 / Project Work A		
	7月	9 英語表現Ⅰ（不定詞と動名詞）の復習 10 自動詞＋不定詞 / SVO＋不定詞		期末考查
	8月			実力考查
二学期	9月	11 疑問詞＋不定詞 / 完了形，進行形，受動態の不定詞 12 動名詞		
	10月	13 不定詞と動名詞 / 不定詞を用いたその他の表現 14 英語表現Ⅰ（分詞と分詞構文，知覚動詞，使役動詞）の復習		中間考查 実力考查
	11月	15 さまざまな分詞構文 / withで付帯状況を表す表現 16 Review Exercises 3 / Project Work B 17 英語表現Ⅰ（比較と関係詞）の復習		期末考查
	12月	18 比較級・最上級などの慣用表現 19 関係詞の非制限用法 / 複合関係詞		
三学期	1月	20 Review Exercises 4 / 英語表現Ⅰ（仮定法と否定，話法など）の復習 21 仮定法を用いたさまざまな表現		実力考查
	2月	22 間接話法／否定表現 23 Review Exercises 5 / Project Work C		学年末考查
	3月	24 1年間の総復習および演習		
先生からのアドバイス 授業の進め方 （予習・復習の仕方等）		- 予習→授業→復習の学習サイクルを確立する。 「英語表現Ⅰの復習」にまとめてある表現は徹底的に覚え込む。 - 各LessonのPointで挙げてある例文はForestで文法事項をきちんと理解してから覚え		
評価の観点		- コミュニケーションへの関心・意欲・態度（授業時の積極性やTTへの取り組み） - 外国語を表現する能力（定期考查，実力考查，小テスト） - 外国語を理解する能力（定期考查，実力考查，リスニングテスト，小テスト） - 言語や文化についての知識・理解（授業時の積極性やTTへの取り組み）		
評価の方法		- 定期考查6割，実力考查2割，平常点2割で評価します。 - 定期考查や実力考查の問題は上記の4つの観点に基づいて作成します。 - 平常点は提出物や小テスト，授業中の活動の様子や成果を対象とします。		